

原文は会議所のポルトガル語サイトのページ

<http://pt.camaradojapao.org.br/camara/noticias-da-camara/?materia=12413>

をアクセス願います

マルコス・ベゼーラ・アボット・ガルボン大使のスピーチ
ブラジル日本商工会議所 — サンパウロ2010年12月9日

中山立夫ブラジル日本商工会議所会頭ご夫妻、大部一秋在サンパウロ日本国総領事ご夫妻、松田雅信会議所副会頭、杉山俊美会議所副会頭、平田藤義事務局長ご夫妻、会議所専任理事各位、ご来場の皆様、

本日のイベントにご招待いただき、私と妻アナ・マリアは感謝しております。

また、同僚の在ブラジル日本国大使と並んで貴会議所の名誉会頭就任をご依頼頂き感謝いたします。ここで名誉会頭就任を喜んで承ります。

在京ブラジル大使として伯政府より選出され、大統領により任命された事は私にとって大きな喜びであった事を皆様にお知り置き頂きたいと思っております。

30年の外交キャリアに於いて、今回が初めての大使としてのミッションとなります。大いなるエネルギーと熱意を以って、日伯関係の強化を図る事に身を捧げる所存で(来年)1月、東京へ向かいます。

本日ご来場の皆様には両国が地理的にどれだけ離れているか、また私たちを団結させる強力な人的つながりの経緯などについて延々と話す必要はないと存じます。

既に私達は2008年に、ブラジル日本移民100周年を、2010年には日本におけるブラジル移民20周年を祝っております。

言うまでもなく数々の企業が今晚此処にお見えになっておられること自体、日伯の経済関係の強い絆を表しております。

1980年代、ブラジルが経済的に不安定であり景気低迷に陥った時代を含め、過去には、ブラジルと日本が異なる時期に経験した困難や不確実な環境は私たちの関係の度合いに揺らぎをもたらしたこともありますが、このような事が繰り返されてはなりません。前進するには良好な時期と、非常につらい時期を経験するもので、何処の国にもある事です。

ブラジルと日本の関係は世代を超え築き上げられた、大きな財産であります。

そして今、私達は共に両国にとって事態が良い時だけ一緒に働きかけるだけではいけないと痛感しています。

日伯のパートナーシップ、またそのパートナーシップの強化は両国其々の国内外のハードルを克服していく中でその存在感を発揮させるべきだと思います。

従いまして、ブラジルにとって、日本との提携・交流は我が国が抱える課題を克服する為に極めて重要な要素として存続することでしょう。その具体例として壮大なる農業開拓を実現したセラード開発、及び我が国の鉄鋼業の立ち上げ事業等が挙げられます。

同じく日本の課題である経済強化と国際舞台でのプレゼンス改新への取り組みにおいてブラジルとのパートナーシップ、投資、貿易関係が活用されるべきです。

私はこの心構えで在京ブラジル大使館を担いたいと思います。よく聞き、よく学び、そして特に両国の距離を一層縮める為、努力を重ねたいと思います。

今夜ここにご出席の方々はこの取り組みに重要な役割を果たされます。

在京ブラジル大使館の扉は常に皆様の為に開けてあります。私共の電話番号、電子メールも同様です。ためらいなく私たちに問い合わせ、意見を述べ、提言をして下さい。この作業には皆様と私共全員の参加が必要です。

2011年には、私とアナ・マリアに多くの発見と多くの仕事が待ち構えておりますが、皆様にも新たな発展、大いなる繁栄とご健勝をと祈っております。

誠に有難うございました。